



## 背景

当院では腎代替療法(以下RRT)の説明を慢性腎臓病療養指導看護師(以下CKDLN)1名が担っている。そのためCKDLN有資格者への負担や業務に偏りが生じることが先々への懸念となった。

## 目的

全ての看護師がRRT選択支援に関わることができる



# 当院のRRT選択支援

保存期CKD患者にRRTが必要となった段階で医師より説明



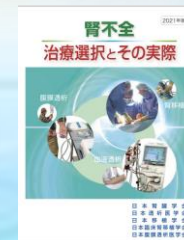
- ☛SDMをもとに患者のライフスタイルの情報収集
- ☛診察での医師の説明に対しての患者・家族の思いを確認
- ☛患者の自己決定能力の確認



RRTについての情報提供

使用する資料

腎不全治療選択とその実際：日本腎臓学会、日本透析医学会他監修  
腎臓病 あなたに合った治療法を選ぶために： SDM推進協会





## 対象

CKDLNを除いた看護師4名（透析室・外来兼務）

腎不全看護経験年数 15年以上20年未満：1名  
10年以上15年未満：1名  
5年以上10年未満：2名

## 方法

腎代替療法選択ガイド2020をもとに

①質問形式により『RRT』の基礎知識を把握



②患者への説明に自信のない項目を抽出



③自己学習・勉強会による知識の強化



④患者役/看護師役となりRRT選択支援のロールプレイ



⑤ロールプレイでの評価・気づき



# RRTの基礎的知識の把握について

- 腎代替療法選択ガイドを元にそれぞれの項目について記述による基礎的知識の把握
- 患者への説明についての可否を自己評価

- 1.患者さんに説明できる
- 2.資料を見ながら患者さんに説明できる
- 3.患者さんに説明する自信がないため復習が必要

基本的知識の確認		1	2	3
1	なぜ腎代替療法が必要ですか	2	2	
2	腎代替療法を行わないとどうなりますか	2	1	1
3	腎代替療法にはどのようなものがありますか	3	1	
4	腎代替療法それぞれの長所・短所はどのようなものですか	1	3	
5	腎代替療法それぞれの治療費、自己負担はどれくらいですか	0	4	
6	患者さんは何を基準にして腎代替療法の選択をしてもらうべきですか	1	1	2
【治療法について】				
1	血液透析とはどのような治療法ですか	3	1	
2	血液透析を始めるためにはどのような準備が必要ですか	2	1	1
3	血液透析の生活上の注意点は何かですか	1	3	
4	腹膜透析とはどのような治療法ですか	1	1	2
5	腹膜透析を始めるためにはどのような準備が必要ですか	0	2	2
6	腹膜透析を行う場合、治療に必要な器械はどうしたらよいですか	1	2	1
7	腹膜透析が適している・適していない患者さんはどのような患者さんですか	1	1	2
8	腹膜透析の生活上の注意点は何かですか	0	2	2
9	腹膜透析はお風呂に入れますか	1	1	1
10	バッグ交換に必要な時間はどれくらいですか	2	1	1



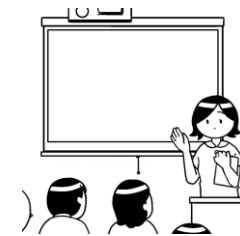
# 患者への説明に自信のない項目の抽出

## < RRT 基礎的知識 >

- ◆ 腎代替療法を行わないとどうなりますか
- ◆ 患者さんには何を基準にして腎代替療法の選択をしてもらうべきですか



自己学習  
勉強会



## < 治療法についての知識 >

- ◆ 血液透析を始めるためにはどのような準備が必要ですか
- ◆ 腹膜透析とはどのような治療ですか
- ◆ 腹膜透析を始めるためにはどのような準備が必要ですか
- ◆ 腹膜透析を行う場合、治療に必要な機械はどうしたらよいですか
- ◆ 腹膜透析が適している・適していない患者さんはどのような患者さんですか
- ◆ 腹膜透析の生活上の注意点は何か
- ◆ 腹膜透析はお風呂に入れますか
- ◆ バッグ交換に必要な時間はどれくらいですか



自己学習・勉強会  
メーカーによる勉強会の開催



# RRT選択支援のロールプレイ



- ▣ 異なった背景の患者像A、Bを設定
- ▣ 実際の資料を使用
- ▣ 看護師役ナースが患者役ナースに対しRRTの説明を行う

## <患者像A>

Aさん 30代 女性

原疾患：IgA腎症

妊娠高血圧症及び妊娠糖尿病を併発し、腎機能が徐々に低下。

介護職で、病気に対する知識はあり、診察時には内服や病状に関する質問や自分の意見もしっかり持っている。

現在2人目の妊娠を希望され、不妊治療に通院中。

職場では管理職についており、今後も介護の仕事継続することを強く望んでいる。

尿毒症症状がないため、病状の進行を受け入れることができていない。

腎代替療法に対し強い拒否観念が見られる。

## <検査データ>

Alb：2.8 BUN：36.1 Cr4.37 eGFR：8.7 K：4.7 Hb10.4

## <患者像B>

Bさん 70代 女性。

原疾患：慢性糸球体腎炎

変形性膝関節症の手術歴あり。左大腿からひざ下にかけてサポーター着用。歩行時には1本杖使用。

通院は家族の付き添いでバスを利用。沿線が違うため通院所要時間が1時間程度かかる。

軽度の認知機能低下あり。エピソード記憶や意味記憶、短期記憶の障害がみられており、本人のみの説明では意思決定の信ぴょう性に欠ける部分がある。

家族は、どんなことがあっても生きていて欲しいという思いが強いが、本人はもうしんどいことはしたくない。このまま死んでもいい。との思いを持っている。

## <検査データ>

Alb：2.8 BUN：61.0 Cr4.76 eGFR：7.6 K：5.3 Hb：9.8





# ロールプレイでの評価

	よくわかった	わかった	わかりづらい
なぜ腎代替療法が必要か			
腎代替療法を行わなかったらどうなるか			
腎代替療法の種類			
腎代替療法の長所・短所			
腎代替療法の治療費・自己負担額			
選択の基準			
血液透析について			
血液透析を始める準備			
血液透析の生活上の注意点			
腹膜透析について			
腹膜透析を始める準備			
腹膜透析に必要な機器の準備			
腹膜透析が適している・適していない患者			
腹膜透析の生活上の注意点			
バッグ交換に必要な時間			

患者役が看護師役の説明を  
『よくわかった』  
『わかった』  
『わかりづらい』の3点で評価



「わかりづらい」と評価した項目  
を本人に伝え自己学習での強化



反復



## 患者役での気づき

## 看護師役での気づき

○説明されている時の質問のタイミングが難しい

○言葉選びや話の間、理解の確認の声掛けが必要と感じた

○ひとつひとつの説明に理解する時間を要する

○説明を行うことに精一杯で患者の理解の確認・共に考えることに気がまわっていなかった

○体調を確認しながら説明をすすめられるのは良いと感じた

○説明の間に体調の確認・家族への配慮などしながらすすめていく必要があると感じた

○声のトーン・大きさが適切だと安心感を感じる

○不安を少しでも減らすことができると感じた

○説明の時の姿勢や目線が気になった

○治療の選択に迷っている患者に対してどのような声掛けがよいのか難しかった

○慣れていないためとても緊張した

○資料の図・表・実際の模型を用いた説明がありわかりやすいと感じた

○療法選択を行う必要性について十分な説明ができなかった

○この経験が自身にとって知識を得る良い勉強となった







## 考察

RRTの選択は患者にとっては自身の人生に関わる重要な選択と言える。そこでの看護師の役割は非常に重要であり、情報提供を行う上でRRTにおける十分な基礎的知識が必須条件といえる。

日常業務の中で臨床実践者個々の知識の把握をこれまで行っておらず、今回CKD治療の知識を記述と質問形式により顕在化し、自らの知識の振り返りを行うことで不足した部分の補填学習ができた。

十分な知識の習得による情報提供とともに大切なことは医療者・患者(家族)の双方向コミュニケーションと言える。

患者役の疑似体験での気づきはそのまま看護師役での気づきに反映されたものであり、今後RRT選択支援を行う上で有効な気づきとなった。



## まとめ・今後の展望

自身のRRT知識、患者の気持ち、看護師としての役割の重要性を再認識するきっかけとなった。今後のRRT選択支援実践へ役立てたい。

今回の取り組みはRRT選択支援への意識づけとなった。しかし未だ実践には至っておらず課題となったが、継続して取り組んでいきたい。

今後は腎移植・CKMを含めた更なるRRTの知識を深め、患者にとって最善なRRT選択支援の在り方について看護師全体のスキルアップを図りたい。

